

新宮山彦ぐるーぷ第2318回

熊野修験秋峰最終日に同行(金峰神社↓蔵王堂)

◇実施日 9月8日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、畑林秀味、大江徳子、阪口雄二、梶野照雄、
村吉光夫、高橋桂太 7名

我々のぐるーぷが第一次千日刈峰行を終えた昭和63年9月、玉岡東、山上の3名が青岸渡寺の高木亮英氏を案内したことが大峯南奥駈道の再興の始まりであり、熊野修験の奥駈行の再興日でもある。その日を起点として今年の奥駈行は36回目となる。

高木氏を案内したご縁で、熊野修験との関係は現在も続いている。3月、4月、5月の春峰、9月の秋峰には会員の高齢化で同行することはなくなつたが、5月、行仙宿泊のサポート、翌日の持経宿での接待を続けている。



金峯山寺、蔵王堂



吉水神社



蔵王堂と吉野の街並み

秋峰最終日の金峰神社から蔵王堂までの同行についても長い間ご無沙汰だったが、今年は当ぐるーぷの創立50周年、千日刈峰行開始から40年〇1336年後醍醐天皇が京から吉野へ行幸された際、ここを南朝の皇

世界遺産登録から20年と大きな節目の年であり、記念行事の一つとして、最終日の同行を実施した。

当日は雨が降る心配はないが、依然として気温の高い状態が続いている。午前7時過ぎに新宮を出発し、予定していた2時間30分で吉野に着いた。午前9時30分過ぎに下千本の駐車場に着いたが、梶野、高橋のお二人は歩いて金峰神社に向かったようだ。



本日の参加者



熊野修験一行が到着



金峰神社で勤行

村吉さんは、歩かないので金峰神社、蔵王堂、下千本駐車場の送迎を担当するとの申し出をいただいた。登りを歩かずに済むので大変ありがたい。受付で尋ねると、昨年は金峰神社着が12時だったが、今年は何人かが多いことや暑さが厳しいので遅れるのではないかとのことだった。

村吉さんが吉野の観光案内を買って出られ、4人が村吉車に乗り込む。まず、村吉さんお勧めの吉水神社に向かう。ここは通りから外れた奥まったところで、進入路も狭く訪れる人も少ないようだが、入ってびっくり。境内から南側を眺めると、「目千本」と呼ばれる中千本と上千本が一望できる絶景ポイントとなっている。

役行者によつて創建された格式の高い修験宗の僧坊だったという。その歴史は

居としてお住まいになられた。
○源義経が兄の追手から逃げる途中、静御前、弁慶等と共に隠れ住んだ。

○太閤秀吉が吉野で盛大な花見の宴を催したが、その際ここを本陣として数日間滞在した。

など、歴史好きにとつては興味が尽きない場所だ。明治時代の廃仏毀釈を乗りきった吉野で、吉水神社が果たした役割は大きなものがあつたと聞いた。その後醍醐天皇陵を経て金峰神社に向かう。途中の林道で梶野君と出会い、金峰神社には高橋君が一人待っていた。



櫻本坊で勤行



喜蔵院



東南院

昼食を済ませ四寸岩山まで出向いていた熊野修験関係者から、午後1時過ぎに到着予定と報告を受けた。あと1時間ほどある。

午後1時10分、予想された時間に熊野修験一行が金峰神社に到着、全員で勤行して休憩された。金峰神社に集まったのは、釈迦ヶ岳から3日間歩いてきた23名、最終日のみ参加の15名、サポーターの方々約20名、合わせると60名近くの大所帯だ。先達から蔵王堂に向けて出発します。一列になり、その列を乱さず無言の行でお願いします」と指示があり、一列で歩き出す。吉野水分神社、櫻本坊、喜蔵院、東南院で勤行を重ね、約2時間で蔵王堂に着いた。途中は舗装道路で下りばかりだが、

傾斜が急なところもあり、おまけに日差しが強く暑さも半端ない。年老いた身には苦行だった。



蔵王堂で勤行



集合写真撮影



駐車場で解散

蔵王堂で勤行し、集合写真を撮って駐車場に戻った。畑林君もかなりきつかったようで、駐車場に戻ってから少し体調を崩したようだ。久々の奥駈行参加と、プロドライバー村吉さんの観光案内で充実した一日だった。
(記：沖崎)